(公財)北海道サッカー協会御中

2022 年 5 月 3 日

報告者　札幌地区　岡聖人

2022 年度北海道レフェリーアカデミー第 1 回（通算第 11 回）
事業報告書

［日時］2022 年 4 月 29 日(金)、30 日(土)
［会場］自宅、札幌ドーム、札幌サッカーアミューズメントパーク
［参加者］インストラクター：古曽部 統太郎 RAM、岡田 渉 RAI　今川 一輔 RAI、伊藤 真也 RAI
審　　判　　員：一瀬 哲平、岡 聖人、濱岡 優太、山口 麗弥
オ ブ ザ ー バ ー：HKFA 強化指定審判員（2 日目フィジカルチェックのみ）
工藤 圭祐 氏、佐藤 知 氏、堀 悠雅 氏
［研修テーマ］アカデミー2 年目を迎えた更なるモチベーションアップ

4 月 29 日

9:40　集合　zoom 研修

§Ⅰ　「競技規則講義」

・映像を用いて、審判員でディスカッションを行った。

・映像内容：
主審のファウルの笛の直後、競り合おうとしていた A 選手が止まりきれず、
ジャンプしていた A 選手の膝がB選手の顔に当たってしまった。

・審判員意見：
インプレー中に同じ事象が起こったら、退場を命じるがアウトオブプレー中であったため、判断に迷った。警告や退場を命じることは可能だが、競技規則に則った時に何の理由で警告や退場を命じるのかが不明瞭であったため、当該選手には厳重注意で懲戒罰なしの判定。

・インストラクター助言：
警告や退場と感じたのであれば、提示すべき。アクシデントと捉えることはできる。競技規則を根拠にディスカッションしたことはよかった。

§Ⅱ　「今年度のテーマ決定」

・審判員でディスカッションを行い、今年度のテーマを決定した。

・2 年目テーマ：**「五常(仁・義・礼・智・信)～応援される審判員に～」**
仁～人を思いやること。
義～なすべきことをすること。
礼～礼儀。
智～道理をよく知り得ている人。知識豊富な人。
信～誠実であること。
この五常を心がける事によって応援される審判員になりたいと言う思いを込めた。

13:05　観戦研修

・大会名：明治安田生命Ｊ1リーグ

・対戦カード：北海道コンサドーレ札幌 vs 湘南ベルマーレ

・内容：

「気づき」のテーマのもと、プロの試合を見る事によって上級審判員から多くのことを学ぶ機会となった。試合を見て気づいたことを審判員は２日目に発表することによって全体で共有した。

・コメント：

普段何気なく映像で見ているＪリーグであったが、目的を持って見ることでたくさんのことに気づくことができた。今主審は何を考えてその位置にポジショニングをとったのだろうか、自分はファウルだと思った事象で主審がファウルとしなかったのには何か理由があるのだろうか、など様々な視点から気づくことができた。

15:10　解散

4月30日

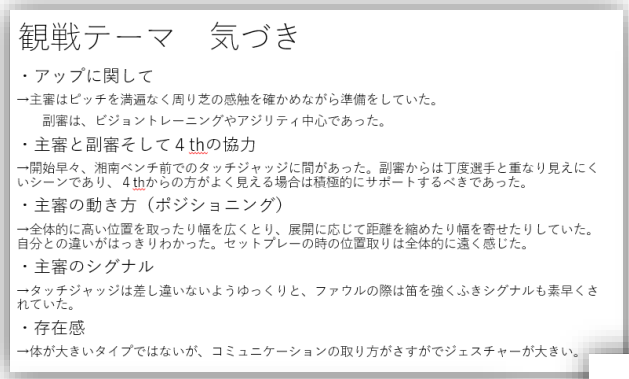
9:40　集合　zoom 研修

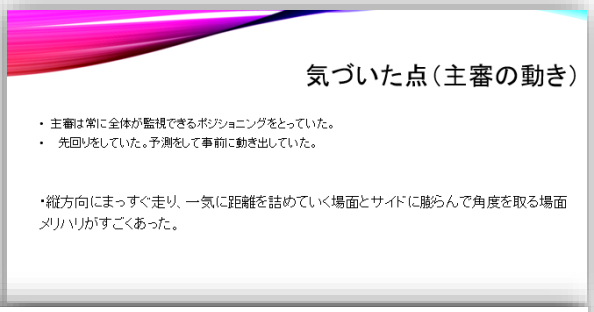
§Ⅰ「観戦研修振り返り」

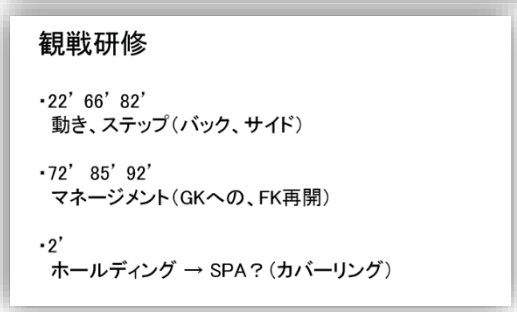
・前日見た試合を元に、審判員は PowerPoint を用いて気づいたことを共有した。

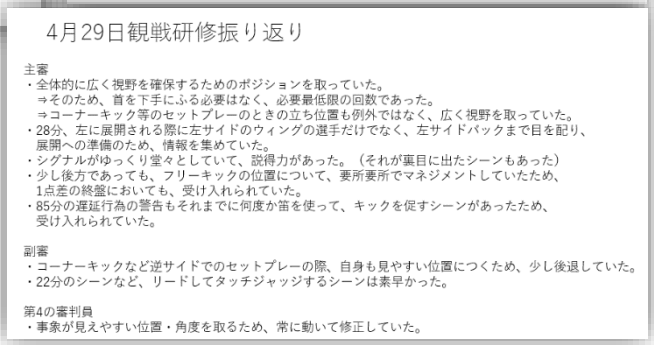
・内容（コメント）：

４名の審判員で共通して上がった項目は、動きとポジショニングについてであった。主審は予期予測を行い、常に全体が監視できる且つ争点により近い位置で監視を行なっていた。これにより、正しい判定に繋がっていたと感じることができた。









§Ⅱ「physical 講義」

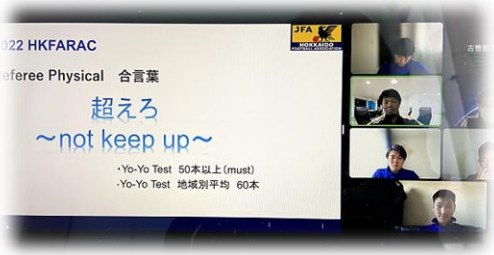
・Warming-up の考え方についてというテーマで岡田 RAI の講義を聴講した。

・内容：

何のために、どのような目的でウォーミングアップは行うのか。目的を明確にし、そのためにはどのような内容の運動を行うべきなのかを学んだ。ここでは大切な要素として次の６つが挙げられた。

1）Thermogenesis /2) General Mobility /3) Muscle Activation /4) Transit Mobility / 5) Dynamic Mobility /6) Build-Ups

これらを適切に組み合わせることで良いウォーミングアップを行うことができる。しかし、この項目を必ず行わなければならないという訳ではなく、自分に合った方法で行うことが大切になる。



・2022 アカデミーの physical 合言葉は前年度の「超えろ」より、

『超えろ～not keep up』に決定した。

具体的には Yo-Yo test　50 本以上（絶対条件）・地域別平均 60 本とする。

13:00　physical check

・内容：

Yo-Yo test / sprint test を行った。

・結果：

Yo-Yo test　４名平均　４９本

15:00　諸連絡・解散